について再度自分自身で取り組み，「わかったつもり」から脱却し，納得のいく数理を獲得できるようにする場のことである。それは，自己評価の場でもある。

③　「満足感を味わう」とは，学習後に，「おもしろかった」「こんなことがわかった」などの実感があり，「満足した」と答えられる状態になることである。そのためには，疑問や考えを出せる場，認められる場，定着させる場が必要であると考える。

3．研究の実際と考察

(1)　単元名「比例」―６年―

(1)　本時のねらい（10，11／13）

比例のきまりを使って，未知数を求めることができる。

(3)　本時の展開

展開	学習活動・内容	時間	○教師の支援　●評価	仮説とのかかわり
とらえる	1. 本時の復習をし，本時の課題をとらえる。 (1)学習計画を振り返り，本時の学習課題をとらえる (2)本時のめあてをとらえる わからない数の求め方を考えよう。	7分	○ノートを振り返らせ，残った課題を確認する。 ・比例の問題の解決 ・練習問題 ○問題を提示し，何を求めるのかとらえさせる。 コーヒー豆を２４０ｇ買って１８００円はらいました。３００ｇではいくらですか。	
みとおす	2. 解決のための見通しを持つ (1)答えの予想をする。 ・２０００円くらい ・１８６０円	3	○見当をつける力や直観力を育てるために，答えの予想をする。 ●ア（発言） ○ｇは５のどっかかを考えさせる。	
つかむ まとめる	3. 課題解決を図る。 (1)自力解決する。 ・300÷240=1.25 1.800×1.25=2250 240:300=1800:x 7.5×300=2250 ・グラフ	15	●ア，イ，ウ（ノート・発表） ○考えが持てない子に対しては，進もうとするように助言する。 ○それでもできない子には，ヒントボードを与える。 評価も合っていますね x(g) 240 300 y(円) 1800 ×5	
			○考えを見つけられた子は，フリートークを行うようにする	※フリートークの場の設定によって「自分と違う考えの人３人を見つけて話し合ってみよう」と投げかけ子ども自身が，話し合う考えを見つけられるようにする。また，自分の考えについて自信がついたかどうか検証する。
	(2)それぞれの考えの妥当性を検討する。 ・考えの説明 ・質問 ・妥当性の判定	10	○教師が話し合う考えを指示するのではなく，子ども自身が話し合う考えを見つけ出せるようにする。	
	(3)比較検討する。	10	○解決しやすい考えはどれか話し合わせる。	
ふかめる	(4)考えについて確かめをする。	15	○確かめの場を設定し，自分以外の考えにも取り組めるようにする。 ●ア，イ（ノート） ○比例関係でき上がった子中心に展開場を作り， ○考えがかわったことを中心に話し合えるよう助言する。	※確かめの場の設定によって ・説明を聞くだけではなく，自分でその考えに取り組み十分体験させて自分のものにさせるそのことによって，考えがどう変わったか検証する。
	(5)どの方法がよいか話し合う。	10		
	(6)練習問題に取り組む。	10	●カ（ノート） ○練習問題に取り組み，問題を解決する能力の定着を図る。	
まとめる	4. 本時のまとめをする。	10	●エ（ノート） ○納得する考えと学習した満足感について自己評価させる。	※満足感について ・満足感を１～４の数字と文章で表現させ，検証する。

(4)　指導の結果と考察

①　フリートークについて

本時は，解決の見通しについては話し合いをせず，即自力解決に入った。

その結果，子供達は次のような考えを見つけていた。

a，300÷240＝1．25　1800×1．25＝2250

b，240：300＝1800：x　（7．5）　1800÷240＝7．5　300×7．5＝2250

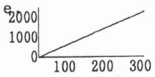
c，1800÷240＝7．5（１ｇの値段）　7．5×300＝2250

d，

x(g)		60	120	240	300	
y(円)		450	900	1800		

×5　1/2　1/2　1/2　1/2　×5

e，



ここで考えができた子のみに，「自分と違う考えの人を３人見つけて話し合ってみよう」と投げかけ，フリートークに入った。自分の席を立ち思い思いの所へ移動し，自分と同じ考えかどうか確かめていた。

フリートーク（だれとどんなことを話したか）

・春香さんや，石山さんのノートを見せてもらった
・由加さんと，表の書き方について話し合った

有効性

④・３・２・１
理由　１と同じ考えの人もいて，自信になった

フリートークを初めて取り入れた２時目は，「うるさくなるのでやらないほうがいい」「別なことを話している人がいる」などの否定的な反応があった。

そこで，「自分なりの考えが見つかった子だけフリートークに入ること」「自分の考えを説明したり，疑問点について話し合ったりすること」など，学習の仕方を指導してきた。その結果，不必要に席を立つ子は少なくなり，どの子がまだ自分なりの考えが持てないか一目でわかり，教師の支援もしやすくなった。一方